

■米国：EPRI、2030年までに45基の原子力発電所建設が必要であると分析

EPRIは2009年8月3日に開催された夏季セミナーにおいて、温室効果ガス削減のためには2030年までに45基の新規原子力発電所建設が必要であるという分析結果を発表した。これはEPRIの”PRISM”解析によるもので、この他にCCSやプラグイン・ハイブリッド車の利用促進、原子力発電所の寿命延長(60年超)による効果も考慮している。これにより電力業界による温室効果ガスの排出は2030年時点で2005年比の41%まで削減できる見込みであり、2050年時点の発電コストの増加は80%程度に留まる見込みである。EPRIは今回の分析で原子力発電所の新規建設や寿命延長、並びにCCSやプラグイン・ハイブリッド車の利用促進を見込まないケースについても評価しているが、この場合には210%を越える発電コストの増加になってしまう見込みである。